

中国でプラスチック資源循環が活発に

◆Dowはポリエチレンのリサイクルを強化、UnileverもAlibabaと協働

Dowは2021年1月、中国・上海市で大手洗剤ブランドLiby（立白）やIT企業LOVERE（愛分類・愛回収）とともに、プラスチック廃棄物の回収・リユース・リサイクルやリサイクルしやすい設計に取り組むと発表した。DowとLibyは20年10月に洗剤の容器包装に、マテリアルリサイクル可能なポリエチレン（PE）単一素材「INNATE」を導入している。今回はLOVEREの回収・選別装置を活用して、Liby製品の容器包装に使われる「INNATE」などPEの資源循環に取り組む。

Dowは中国では、18年10月からLOVERE、金発科技と廃プラの回収・リサイクルに取り組んでいる。20年5月には、使用済みプラスチックをリサイクル・再生したプラスチック樹脂を40%含んだシュリンクフィルムを開発し、中国・南京を製造拠点としてアジア太平洋地域向けに展開している。

一方、UnileverとAlibaba（阿里巴巴）グループは21年1月、プラスチックのボトルを自動で識別、分類するAI対応の分別・回収システムを発表した。上海市と杭州市のオフィスや公共施設に設置された装置で、さまざまな種類のボトルを回収する。回収に協力した消費者は、決済アプリAlipayのサービスを通じて、クーポンやポイントが得られ、植林活動などにも寄付できる。

◆中国政府は政策強化、中国化学産業界も外資と協働で取り組む

中国政府は20年7月に「プラスチック汚染防止を確実に実施するための通知」を発表した。これを受けて、上海市など各地で使い捨てプラスチックの使用抑制、リサイクルや代替品開発を推進する政策が相次いで発表されている。

産業界では20年6月に、中国石油化学工業連合会が音頭を取りP&GやDow、Covestro、Suez、BASF、SK Global Chemicalなど外資も参画して「Green Recycled Plastics Supply Chain」が設立されている。参画企業のCovestroは20年1月に、農夫山泉と共同でポリカーボネート製ボトルを回収し、家電や自動車向け材料への再生を発表している。また、BASFは20年6月に生分解性プラスチックの製造・販売ライセンスを中国企業に与えている。

【長谷川雅史】